

6月13日 和歌山市秋月日前国懸神宮 堰祭 那賀郡粉河町

井堰祭、堰祭、井祭、水口祭ともいう。

和歌山市秋月町、日前（ひのくま）、国懸（くにかゞす）両宮の祭。

旧神領名草郡三千代町歩に紀の川から堰を造って水を曳いたその用水。宮井川の堰を開く祭りである。両社は重仁16年に名草郡浜の宮から秋月に移った。もとは井目氏、井沙汰人の制があって5月下旬にやった。神幸。両神神輿、舁ぐのは若装白丁姿。8:20a.m一の鳥居出発、花山峠。西和佐宇田森高橋神社、神饌、祝詞、9:30a.m。布施屋第二開門を経て小倉、上三毛の竜之口樋門着正午。樋門開きの式12:30終了。水を通すとき二本の竹を流す。これは龍蛇に象ったもので、始めて堰を開いたとき龍蛇に導かれて出来たという伝説による。13:50還幸。途中宇田の沼家で休憩して16:30神社に還御となる。堰の要所では沿道の人々が線香を立て、「水神」を祈る。

小雨。和歌山線沿線、玉葱の収穫に忙しい中を船戸に行く。小倉、上三毛「竜之口樋門」へ行ったのであるが、現在、堰祭は全然その姿を替えている。

紀の川、船戸の和歌山線鉄橋の上手、貴志川との合流点の下手の所に新しく堰堤が築かれ、宮井川水路の取入口もこの堰堤に新設された水路は御殿山を墜道で抜いて上三毛に継いでいる。同時に戦後、堰祭は秋月町日前国懸両神官とは縁の切れたような形となり、花山峠、和佐布施屋を経て小倉、上三毛に至る。神輿の渡御はない。同時に、各開門での祭典もない。船戸では新設の堰堤の岩井川水路取入口の堰門の所で、地場の神主に頼んで、水門関係の役員が集って6月13日に修祓をする。踏切の手前にある公民館（弁天祠が隣にある）が臨時の直会場になり、こゝで祭典の手伝をさせられている。水門関係の所員が手伝って忌竹や注連縄、神饌を堰まで運び、手前11時から、短かい祭典がある。閘門を巻き揚げるモーターの下に祭壇を設け、祝詞があって、神官が、塩と神水を水路に撒き、そのとき形ばかり、モーターにスイッチを入れて少し閘門を動かすだけである。折からの鮎開禁で紀の川筋は釣人でだいぶ賑っていた。

沿線分水路の要所で部落の人々が線香をたて、「水神」を祀ったのは、現在お年寄の人が子供の頃あった記憶に残っている程度で、ずっと前になくなったらしい。唯水路に子供が落ちて溺れることがあるので常に子供を戒め、又水死した子供の霊を慰めるため線香を立てたという。